

## 「狭山池博物館と泉北すえむら資料館と土塔」

担当:3丁目 井守 徳弘

### ●予定コース:

南海高野線大阪狭山市駅—狭山陣屋跡記念碑—狭山池—  
狭山池博物館(無料)—(バス)—泉北すえむら資料館(無料)—  
復元TG61号窯跡—泉北高速鉄道泉ヶ丘駅—(電車)—深井駅—  
土塔(無料)—深井駅 (解散5時00分ごろ、徒歩4km)

### ●狭山陣屋跡記念碑

狭山藩北条氏は小田原北条氏の一族である。天正18年(1590)北条氏は豊臣秀吉の小田原攻めに敗れたが、徳川家康の計らいで北条氏規(うじのり)は秀吉から狭山の地に領地を与えられた。

第2代藩主氏信は、狭山池の東北に陣屋を構築し、第3代藩主氏宗のときに上屋敷が完成した。この陣屋の建造によって狭山藩は実質的に開かれた。以後、小藩ながら幕府の要職をつとめることもあり、明治の廃藩まで北条氏による統治が続いた。

天明2年(1782)に陣屋が焼失したため、天明6年以後に再建された。

狭山陣屋跡記念碑付近に藩主の御殿があり、南に伸びる大手筋の両側に藩士の屋敷が並んでいた。(案内板)

### ◎狭山藩

北条氏の祖は、関東地方で勢威を振るった有名な英雄・北条早雲である。しかし北条氏は天正18年(1590年)、豊臣秀吉の小田原征伐により滅亡してしまう。戦後の処罰により、北条氏第4代当主・北条氏政と北条氏照は戦争責任を問われ切腹となったが、第5代当主・北条氏直は徳川家康の娘婿であるという所以から、北条氏規(北条氏康の5男で、氏政、氏照の弟)は和平に尽力し、秀吉とも会見していたという経緯から特別に許され、高野山での蟄居を命じられた。

天正19年(1591)、氏直は嗣子無くして30歳の若さで死去。このため、北条氏の嫡流は断絶したが、氏規がその後を継いで後北条氏の当主となる。

その後、罪を許されて氏規の長男・北条氏盛は下野国内で4,000石、氏規も河内狭山で7,000石を領することになる。慶長5年(1600年)、氏規が没すると氏盛はその家督と遺領を継いで1万1,000石の大名となる。これが狭山藩の始まりである。以後、後北条氏12代の支配で、明治時代にまで至った

◎狭山陣屋跡記念碑  
 (天明6年以後に再建の陣屋の絵図)



◎上屋敷



◎下屋敷

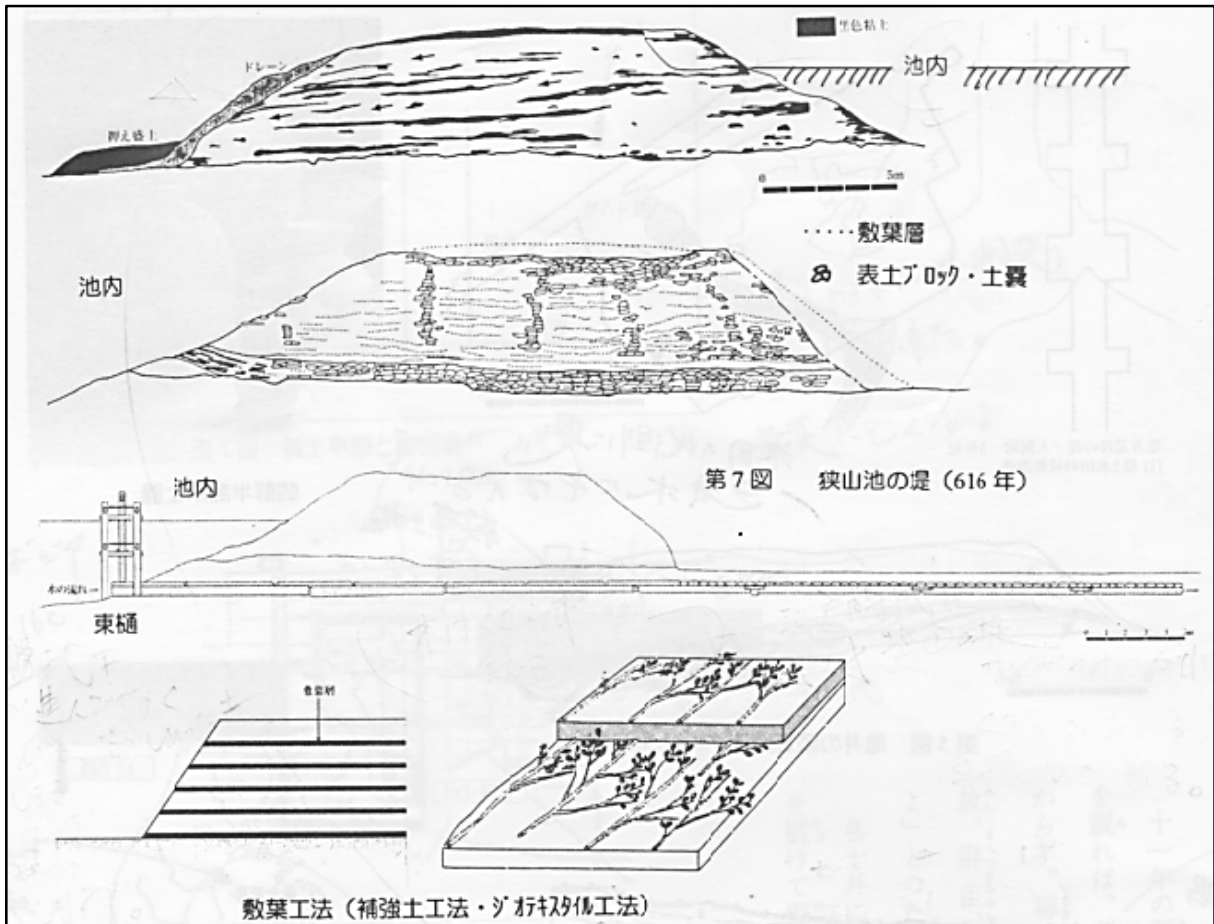
●狭山池

狭山池とは、大阪狭山市大字池尻にある日本最古のダム式ため池である。7世紀前半に築造されたとされ、『古事記』・『日本書紀』にもその名が記されている。各時代で幾度となく改修が重ねられ、平成の大改修のダム工事でダム化するとともに、池の周囲は公園として整備されました。

石川や大和川といった水量の豊富な河川から外れる河内国西部の丘陵地帯は、水量に乏しく灌漑に苦勞を強いられていた。しかし、飛鳥時代前期、朝廷によって天野川と今熊川が堰き止められ狭山池が築造されると、下流域に用水路を作り、平均的な水の確保ができるようになった。

樋や堤体の構造は昭和63年(1988)に詳しく調査され、東樋(高野マキ)の年輪年代測定結果から、7世紀前半につくられた日本最古のため池であることがわかりました。また堤体の盛り土が幾層にも積まれ、その1部に植物層を含む層があることが判明し中国や朝鮮から伝わった敷葉工法(葉のついた枝を土留めに使う工法)が用いられていることがわかりました。

## ◎敷葉工法



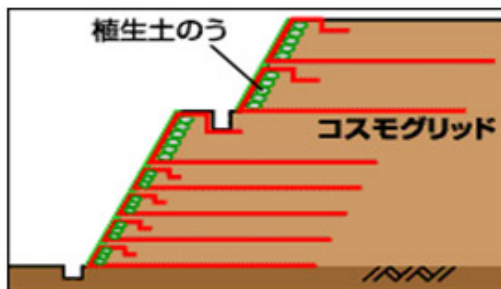
2004年度同志社大学公開講座『考古学に歴史を読む』の

「古代の土木技術」小山田宏一（大阪府弥生文化博物館学芸員）講義より

狭山池の築造で威力を発揮した敷葉工法と土のう積みは、古代東アジア（中国・朝鮮半島）に広がる盛土工法の一つです。

木は腐らず残る。崩れてすべるときに抵抗力が出る。隙間があり、谷の湿った土で土がしまる。水道にはならずふさがってしまう。江戸時代まで続く塩田の堤などに受け継がれた。

現在でも材質は異なるがジオテキスタイル工法として使われている



## ◎『日本書紀』崇神天皇62年7月2日の条

詔して「農は国の本である。人民のたのみとして生きる場所である。今、河内の狭山の田圃は水が少ない。それでその国の農民は農を怠っている。そこで池や溝を掘って、民のなりわいをひろめよう」



## ◎『古事記』垂仁天皇の段

「印色(いにしき)入日子命(垂仁天皇の子)は血沼(ちぬ)池を作り、また狭山池を作り、また日下の高津池を作りたまひき」とある。

## ◎『枕草子』第三八段

「狭山の池は、みくりという歌が素敵だったので、憶えているのでしょうね」とある。

みくりという歌は『古今和歌集』六帖・第六

「恋すてふ狭山の池の三稜草(みくり)こそ引けば絶えすれ我は根絶ゆる」



### 三稜草(みくりそう)

沼沢地に生ずる。茎は三稜形で高さ約80cm。夏分岐した茎頭に球状に単生花をつけ、雄花は上部に雌花はつく。球状の果実を結び、熟すると緑色。(広辞苑)

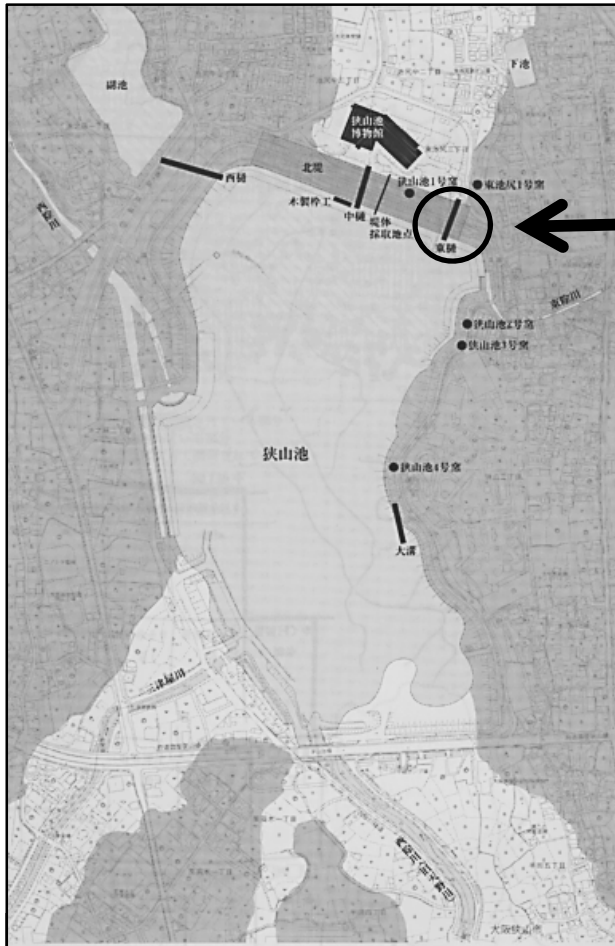
昭和27年(1952)からボートレース開催(狭山競走場)。昭和30年(1955)閉鎖。翌年、住之江競艇場に移りました。

その狭山池で先ごろ、池の歴史始まって以来最大規模の改修工事が大阪府によって行われました。「平成の改修」と呼ばれるこの工事で、それまで主に灌漑用のため池として利用されていた狭山池が、洪水を調節する機能を持った治水ダムに生まれ変わりました。

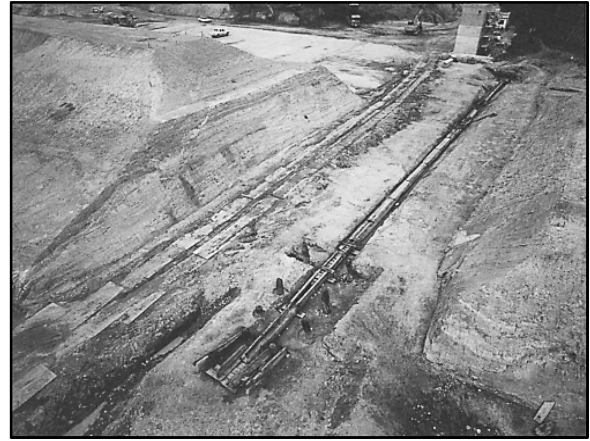
平成の改修が行われた狭山池では、工事と並行して総合的な学術調査が行われました。日本最古のため池である狭山池には、たくさんの埋蔵物が眠っていることが知られ、それらの発見に大きな期待が寄せられていました。また、実際に見つかった遺構や遺物のかずかずは、当初の予想を大きく上回るものでした。中でも注目を集めたのが北堤下から見つかった「東樋(ひがしひ)」です。樋というのは池から水を取る設備のことで、狭山池には、慶長13年(1608年)の改修の際に西樋、中樋、東樋の3つの樋が設置されたことがわかっていました。しかし、東樋は敷設後間もなく土砂に埋もれてしまったために、その行方が400年もの間わからなくなっていました。

東樋では時代の異なる遺構が上下2層から見つかりました。下層から見つかったものは狭山池が築造された当初に設置された古代の樋で、使われている木材の年代測定の結果、西暦616年ごろに伐採されたものであることもわかりました。それは狭山池が築造された時期を示すもので、それまで狭山池がつくられた時代はなぞただただに、池の歴史を解き明かす大発見になりました。

## ◎狭山池東樋発掘場所



狭山池東樋発掘場所



北堤断面と下層東樋  
(飛鳥・奈良時代)

## ●大阪府立狭山池博物館(無料)

大阪府立狭山池博物館では、ボランティアガイドさんをお願いしています。約1時間の見学を予定しています。

建物は、水庭と呼ばれる水盤に外にまで響く轟音と共に流れ落ちる、迫力のある滝が一番の見所ですが、エコで奇数時間帯に放水しているようです。

- ・建物:RC(鉄筋コンクリート)造 地上2階(一部3階)、延床面積 4,948.47m<sup>2</sup>、常設展示室面積:1,815m<sup>2</sup>
- ・設計者:安藤忠雄建築研究所
- ・開館:平成13年3月28日

## ◎常設展示

### ・第1ゾーン(狭山池への招待)

1400年間の歴史が積み重なる、高さ15.4m、幅62mの堤が移築展示されています。

### ・第2ゾーン(狭山池の誕生)

東樋(ひがしひ)の年輪年代測定結果から、7世紀前半につくられた日本最古のため池であることがわかりました。長さ約60mにわたり、この飛鳥時代の東樋(大阪府指定文化財)と江戸時代の東樋を展示しています。

堤には外側の斜面を利用して須恵器の窯がつけられた。これらの須恵器(TK217型式)の年代は、7世紀の前半と考えられ、東樋の年輪年代測定結果とあわせて、狭山池の築造年代をしばり込む資料となった。

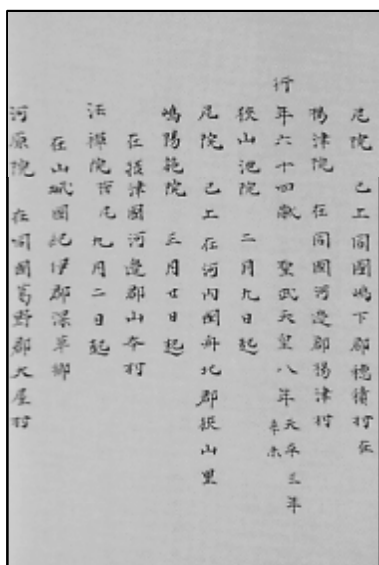


(TK)は高蔵寺地区の名称

狭山池1号窯の須恵器(7世紀)

### ・第3ゾーン(古代の土地開発と狭山池)

奈良時代(8世紀)の改修では、僧 行基(ぎょうき)が活躍しました。また律令国家による大規模な改修もありました。川やため池を改修して、農業生産の安定をはか国家の土地開発政策と深く結びついていました



『行基年譜』



行基菩薩座像 唐招提寺蔵

『行基年譜』では、行基が狭山池を改修したのは、行基64歳、聖武天皇8年の天平3年に狭山池院・尼院を起工しており、行基の狭山池修造はこのころと思われます。

この天平3年は8月7日に聖武天皇が行基に従う優婆塞・優婆夷(男性・女性の在俗信者)にして老年男女の入道を許した年でもあります。

天平15年(743)信楽(紫香楽)宮にて、盧舎那仏造頭の詔があり、行基、弟子を率いて勧進をはじめました。天平17年(745)大僧正になり、天平21年・天平感宝元年・天平勝宝元年(749)大僧正行基、平城右京・菅原寺にて遷化。年82歳であった。



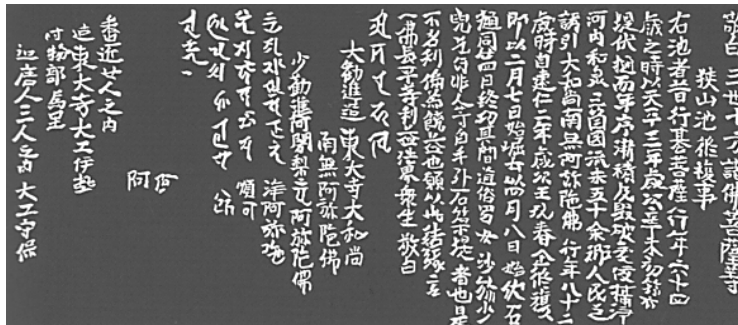
・第4ゾーン(中世の土地開発と狭山池)

鎌倉時代(13世紀)、東大寺を再建した僧 重源(ちょうげん)が改修をおこないました。重源は古墳時代の石棺を利用して樋をつくりました。この時の業績をしるした重源狭山池改修碑(大阪府指定文化財)が見つっています。



和泉砂岩製  
長さ192cm  
幅58・5cm  
厚さ79.5cm

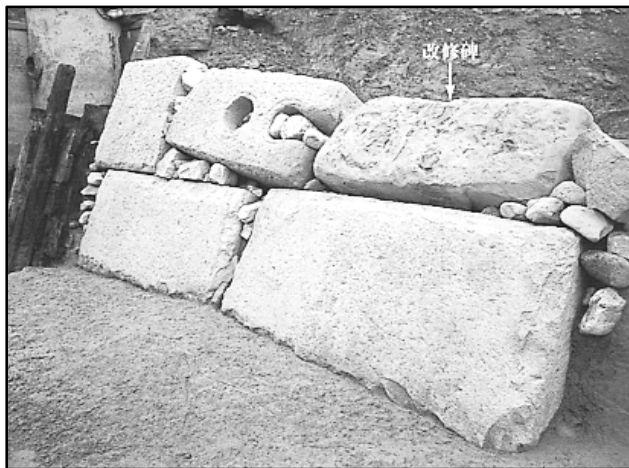
重源狭山池改修碑(大阪府指定文化財) 建仁2年(1202)



「狭山池を修復する事」とあり大勸進造東大寺和尚 南無阿彌陀仏とあり、これは重源の号です。

重源82歳の時、建仁2年(1202)池の修復ことが記されている。

工事には「僧侶・と俗人・男女(を問わず)・沙弥・小児・乞食・非人などが力を合わせ」とあり、あらゆる人が工事に協力していたことが記されています。



中樋と重源狭山池改修碑

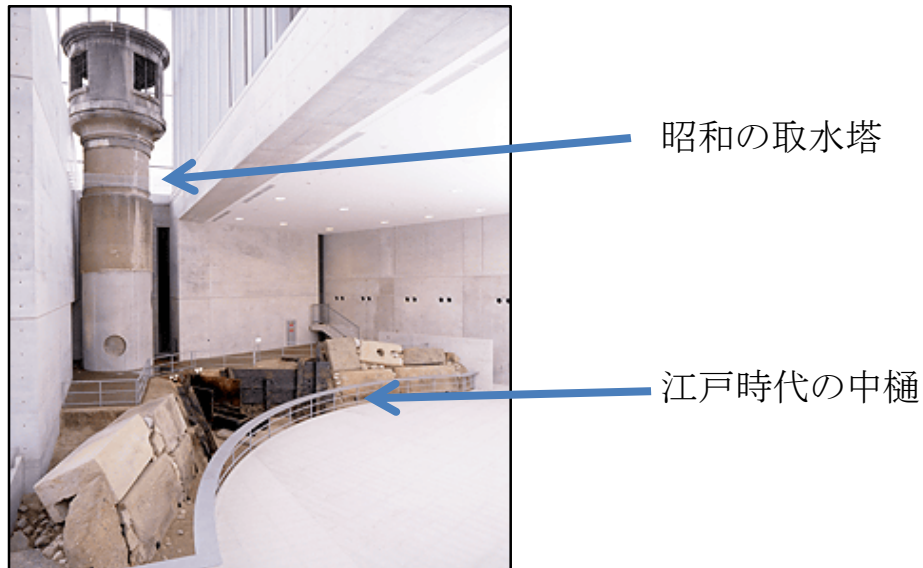


重源上人坐像(東大寺)

狭山池が改修された建仁2年は建久10年(1199)に源頼朝が没し、源頼家が第二代将軍に就任した年でもある。重源は建永元年(1206)に示寂しており、86歳の長寿でありました。

・第5ゾーン(近世の土地開発と狭山池)

17世紀初め、豊臣秀頼の命で、片桐且元(かつもと)が改修をおこなっています。慶長の改修でつくられた中樋(大阪府指定文化財)と木製粹工(堤の基礎を補強する木組)を移築展示しています



中樋(大阪府指定文化財)と取水塔

・第6ゾーン(明治・大正・昭和の改修)

大正・昭和の改修でつくられた取水塔を、現地から移築して展示しています。鉄筋コンクリート製として、全国でも古い例です。

・第7ゾーン(平成の改修)

狭山池は、洪水を調節する治水ダムに生まれ変わりました。

周辺の景観整備もおこなわれました。改修の内容と意義が後世に伝えようとされています。

●大阪狭山市立郷土資料館(無料)

大阪狭山市立郷土資料館は、大阪府立狭山池博物館内2階ホール内へ2009年に移転しました。

狭山市生まれの末永雅雄(考古学者・橿原考古学研究所初代所長)の業績が紹介されています。

狭山のなりたちから発掘した出土品を展示されています。小さい資料館です。



●堺市泉北すえむら資料館(無料)

昭和45年(1970)、泉北ニュータウンの開発に伴って出土した須恵器などを収集・保管・展示して、大阪府民の文化的向上に貢献するため、大阪府立泉北考古資料館として開館されました。

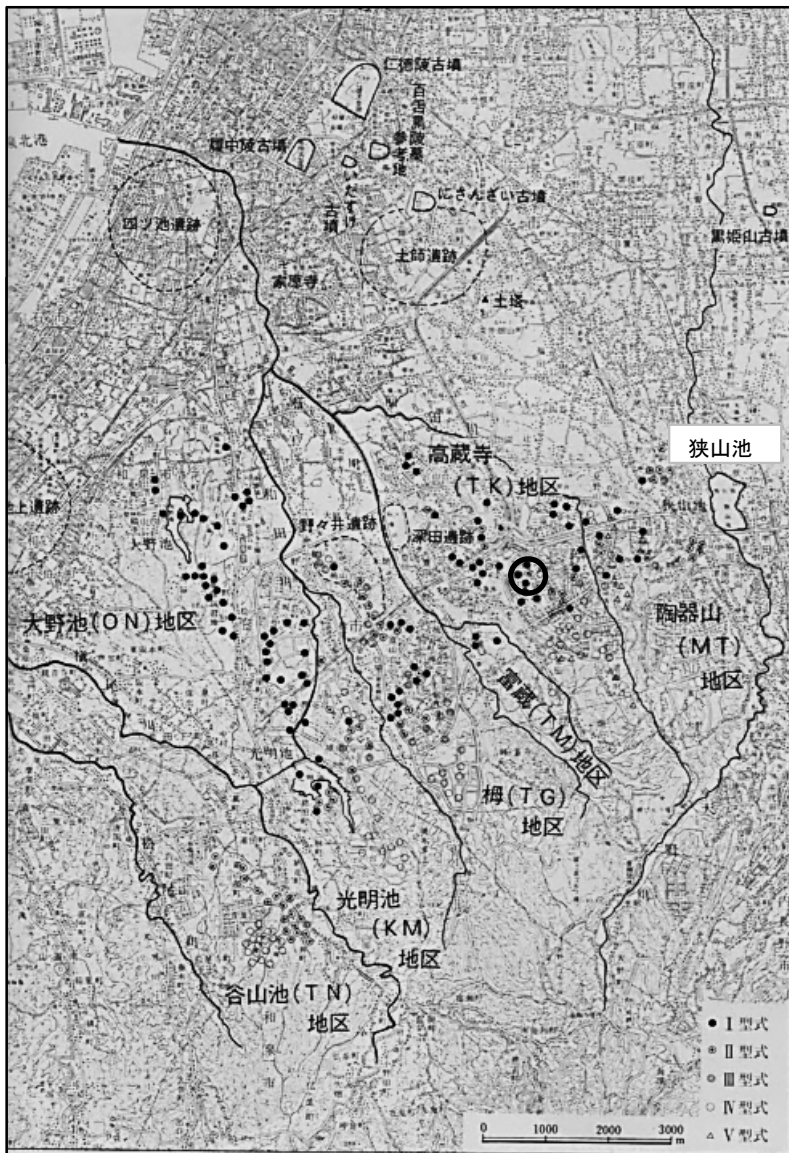
平成22年(2010)4月1日、橋下徹知事による大阪維新プログラムによって堺市に移管され、現在の名称「堺市泉北すえむら資料館」となった。

展示品は発掘された須恵器などの土器や陶器が中心である

周辺は、国内最大の須恵器生産地「陶邑古窯址群」の中心地域で、ニュータウン建設にともない400基を超える窯跡が発掘されました。ここで発掘された須恵器が展示されています。

館名の「すえむら」は『日本書紀』の「崇神天皇7年条には(紀元前91年)に崇神天皇が物部連の祖伊香色雄(いかかしこを)に命じ、三輪氏の祖である大田田根子を茅渟県陶邑から祭祀主として大物主神(大神神社)を祀らせた」とある。この茅渟県陶邑から付けた呼び方です。

茅渟県とは、昔「茅渟の海」と呼ばれた大阪湾をのぞむ現在の泉北ニュータウン一帯のことで、「陶邑」は陶器(須恵器)を作る村でした。



○ 泉北すえむら博物館

陶邑窯跡群の位置分布図

平成17年現在までに確認されている窯跡は、854基である。

司馬遼太郎「故郷忘れじがたき候」のモデルである陶芸家の第14代沈寿官は「スエ」というのは、朝鮮語で鉄という意味なんです。鉄的焼き物ということなんでしょ」と司馬遼太郎と対談で語っている。『須恵器を生んだ古代国家』(金達寿)

須恵器の色は「鉄」と密接に関係する。須恵器の製作技法は4世紀末から5世紀初め頃に朝鮮半島から伝わったものである。

特にその焼成技術は革命的で、丘陵斜面に窖窯(あながま)をつくり、千度以上の高温で焼成し、さらに最終段階で薪を追い足した後、窯を閉鎖する。窯内部は酸欠状態となり還元されて酸化鉄に変化し、須恵器独特の黒味を帯びる。

◎館内の説明は堺市立泉北資料館の森村健一さんをお願いしています。

### ●復元TG61号窯跡(7世紀前半)



TG61号窯須恵器 窯体内歌より出土  
須恵器はⅡ型式6段階新に分類されています。

梅(TK)第61号窯

梅地区南部域の丘陵に存在したア窖窯であり7世紀初期の須恵器生産に築かれ使用されたものである。発掘調査した多数の窯で、泉北丘陵の窯のうちでも最大規模のものであり、泉北丘陵における当時の窯業生産をうかがう資料である。保存度がきわめて良いものであったため原寸で移築されて復元をおこなったものである。手前の平らな部分で薪を焚き、上部に煙道を設け、斜面に壺や甕などを置いて焼き上げたものである。(案内板)



●土塔(8世紀前半)

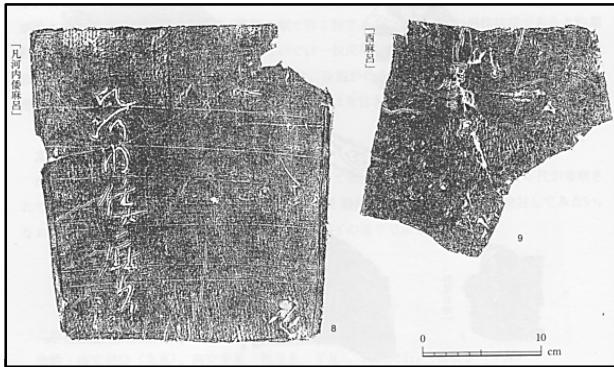
堺市土塔町の史跡土塔は一辺53.1m、高さ8.2mのピラミット型の構造物で、その名の通り土で築かれている。

築造時は表面に瓦が葺かれ、瓦に刻まれた人名や願文から行基の宗教的世界、信仰集団の性格などがうかがえる貴重な文化財である。

『行基年譜』には神亀4年(724)の大野寺建立が記されており、土塔はその境内の一部に築造されたと考えられています。

平成9年(1997)以降、堺市教育委員会は史跡整備を目的に土塔の発掘調査が行われ、平成21年4月復元整備によって創建当時の姿が再現されました。

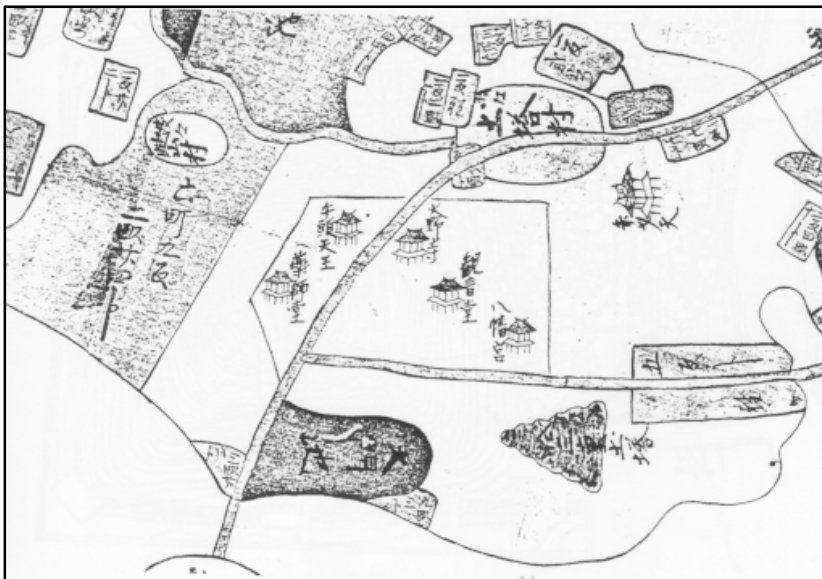
全面に約60,000枚もの瓦が葺かれ、各層の垂直面にも瓦を立てて風雨による盛土の崩壊を防いでいたようです。文字を記した瓦が1,300点出土、大半は人名で行基と共に土塔を建立した知識と呼ばれる人々の名と考えられ、男女を問わず僧尼や氏族の名前も見られます。



(左) 凡河内倭麻呂  
(おおしこうちやまとまる)  
(右) 西麻呂



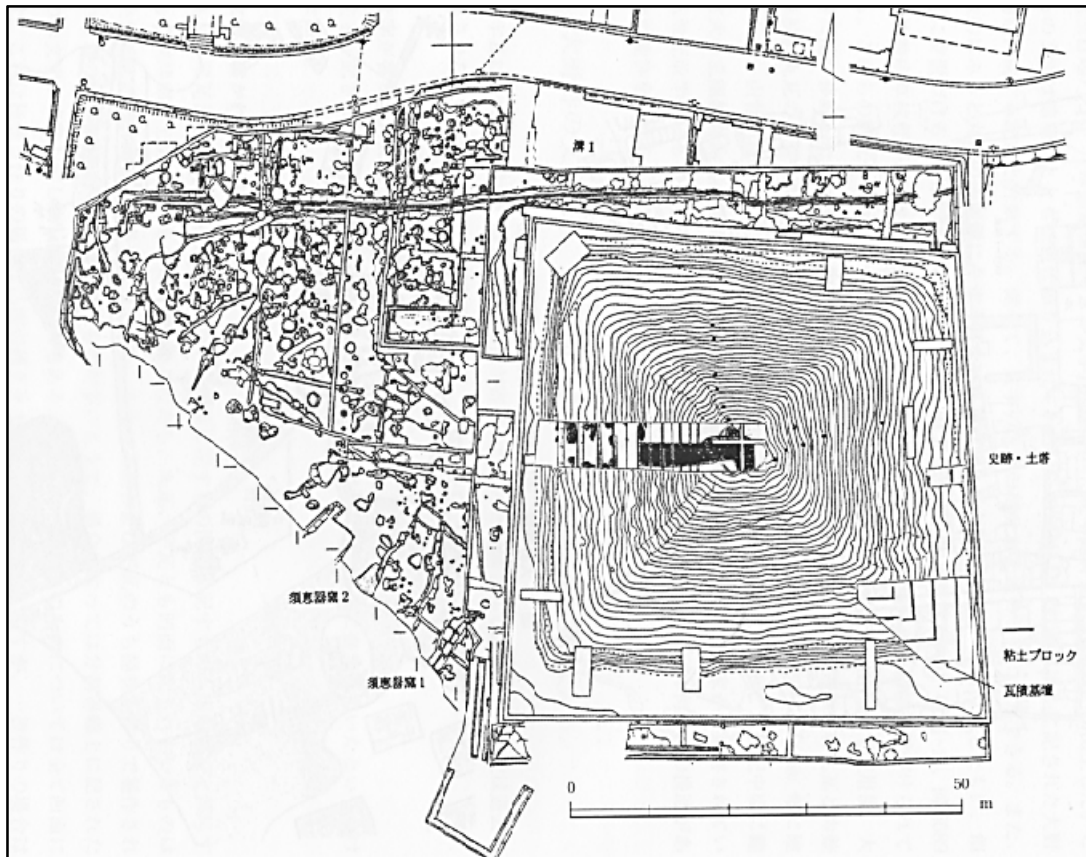
土塔から北西約160mには土塔に使われた瓦の窯跡が2基見つかっています。



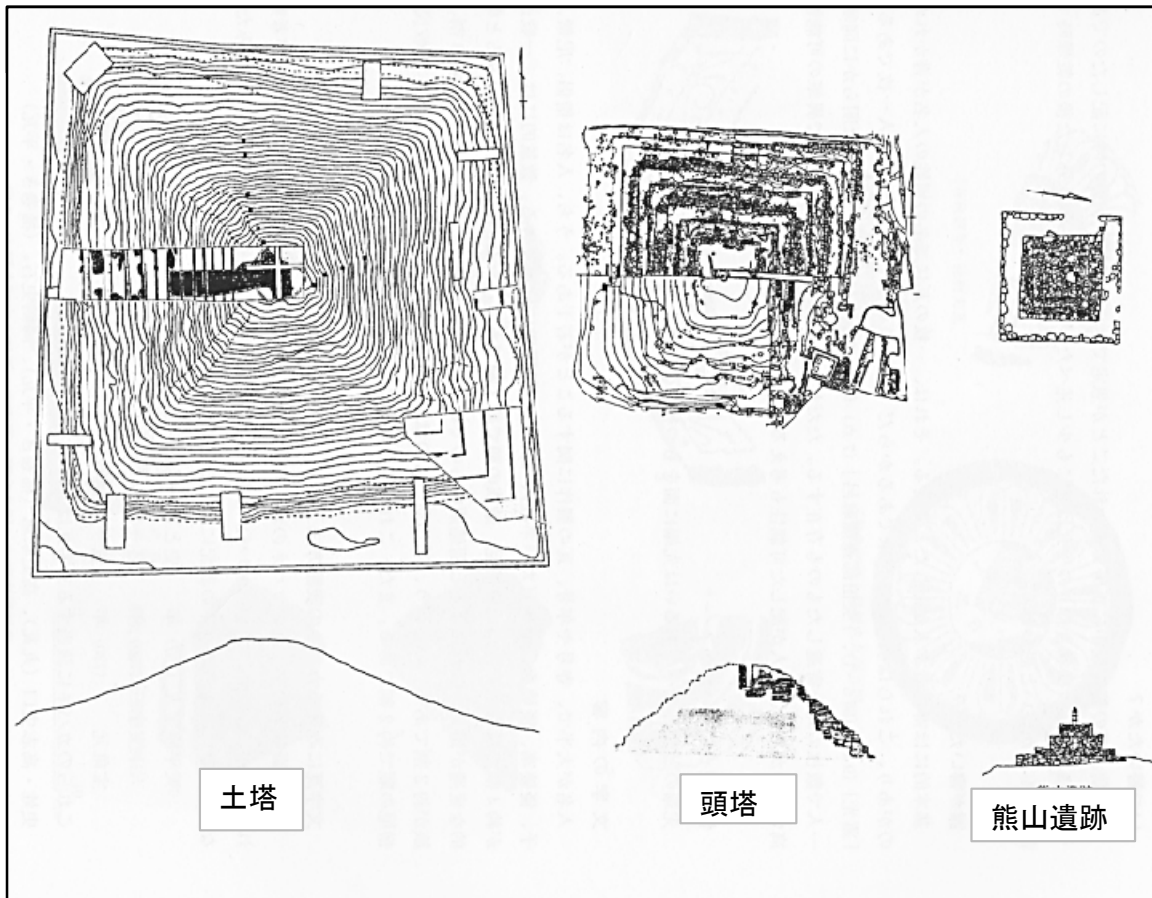
江戸時代後期 弘化4年(1847) 土師村絵図



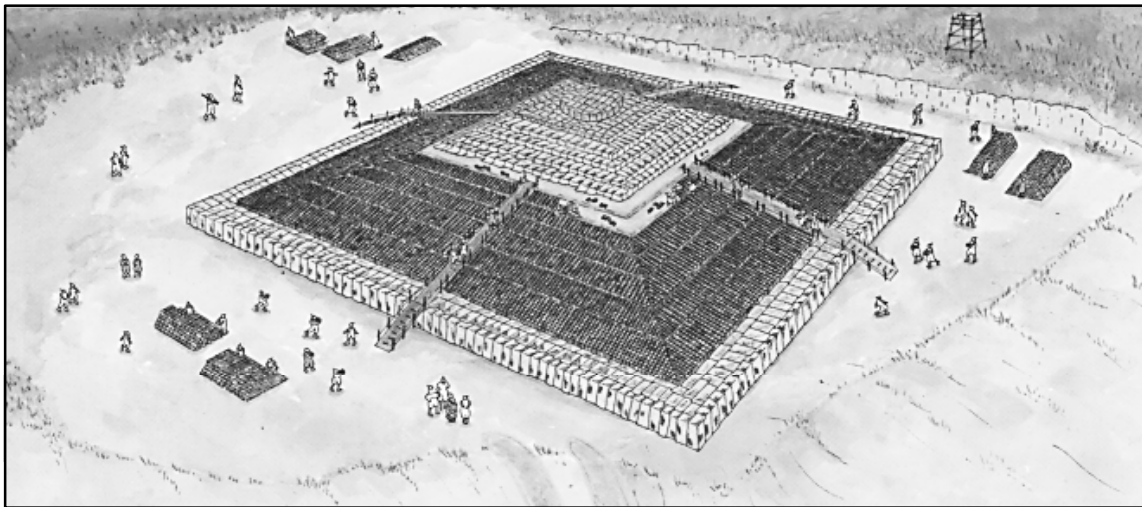
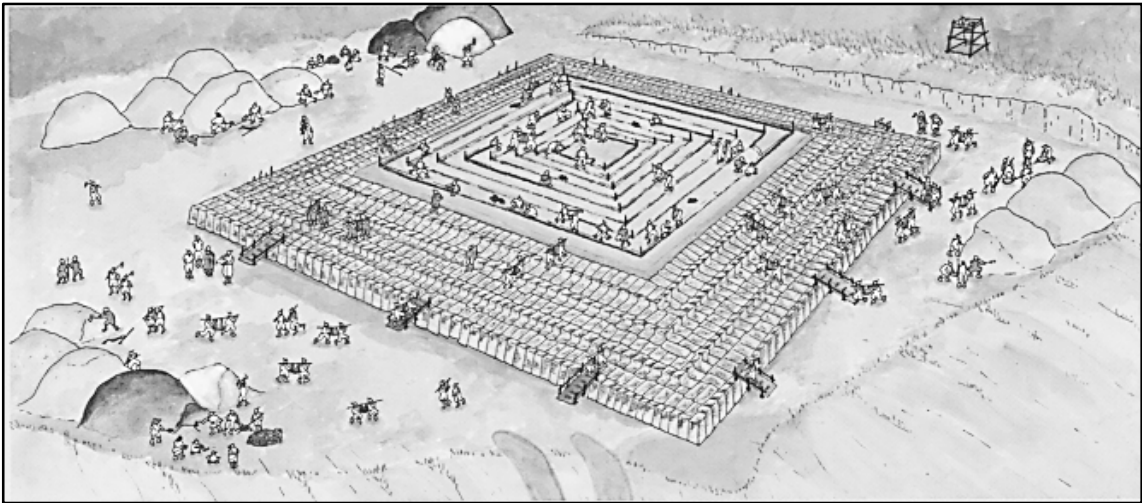
大野寺跡 土塔遺構図



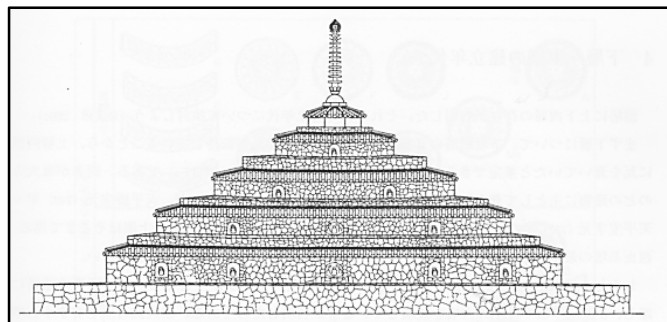
土塔・頭塔(奈良市)・熊山遺跡(岡山県赤磐郡)の大きさ比較



## 土塔を造る想像図



土塔の最上層部は削られて原型を残さないが、平面的には円に近い形である。この部分の上部に構造物が存在した可能性が高い。『絹本著色行基菩薩行状絵伝』には土塔の頂に宝珠のようなものが描かれていると『行基の構築と救済』の中で記されているが、小さすぎて確認できない。8世紀前半に造営された土塔と、8世紀後半に造営された頭塔はともに土で築かれた平面が正方形の階段状壇塔である。奈良文化財研究所が頭塔の復原立面図を描いている。相輪と伏鉢が描かれている。



頭塔復原立面図(奈文研 2001による)



### ◎土塔・頭塔の源流

「塔」とは古代インドの「ストゥーパ」が中国での音読みで「卒塔婆(そとば)」、「塔婆」、「塔」と略されて変わっていきました。

ただ、我が国で仏塔といえば接地面積の割には大変高い建造物をイメージいたしますがインドのストゥーパとは饅頭型の円墳であって高さも低く、我が国での古墳時代の円墳のようでした。

スリランカ ボロンナルワ ストゥーパ

インド サーンチー 第1ストゥーパ



ストゥーパはガンダーラからアフガニスタン・ウズベキスタンを越えてホータンに達し、クチャやトルファンなどのオアシス都市に伝わった。

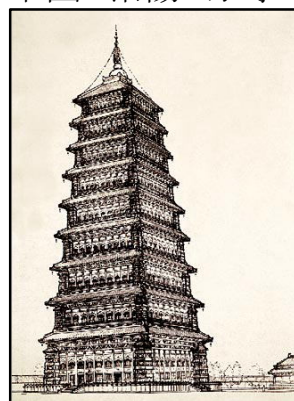
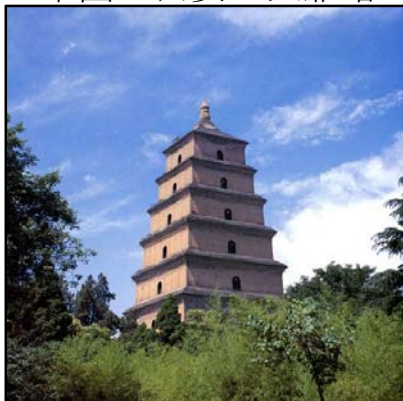
中国トルファンの石窟壁画の仏塔 中国 新疆维吾尔自治区 楼蘭仏塔



中国に仏教が伝わったのは、1世紀後半の後漢代であった。ここでは中国古来の楼閣建築の影響を受けて、インドのストゥーパとは大きく異なる重層の高層建築物として発展していった。

中国 西安 大雁塔

中国 洛陽 永寧寺





朝鮮半島に仏教が伝来したのは4世紀後半で、三国(高句麗・百濟・新羅)時代のことである。もっとも早く仏教を受け入れたのは高句麗の372年のことでした。

韓国 慶州 芬皇寺



韓国安東石塔洞 石積塔



南方の仏塔は、海上交通により東南アジアに伝わったのは5世紀のことです。

スリランカ ボロンナルワ ストーパー



## ●参考文献

- ・日本書紀上・下 全現代語訳 宇治谷孟 昭和63年 (株)講談社
- ・続日本紀上 全現代語訳 宇治谷孟 1992年 (株)講談社
- ・古事記中・下 全訳注 次田真幸 1995年 (株)講談社
- ・水と古代文明 大阪府立狭山池博物館開館記念シンポジウム 平成14年  
大阪府立狭山池博物館編 より「古代日本と狭山池」金田章裕
- ・大阪府立狭山池博物館常設展示案内 大阪府立狭山池博物館図録 平成22年
- ・池守田中家文書 大阪府立狭山池博物館 平成14年特別公開
- ・考古学に歴史を読む 同志社大学公開講座 2004年 同志社大学
- ・行基の構築と救済 大阪府立狭山池博物館図録 平成15年
- ・行基の考古学 摂河泉古代寺院研究会 2002年 (株)塙書房
- ・大勸進重源御遠忌800年記念特別展 奈良国立博物館図録 平成18年
- ・年代のものさし 陶邑の須恵器 大阪府立近つ飛鳥博物館図録 2006年
- ・泉北丘陵に広がる須恵器窯・陶邑遺跡群 中村浩 2006年 (株)新泉社
- ・和泉陶邑窯の研究 中村浩 1991年 柏書房(株)
- ・陶邑と須恵器 堺市泉北すえむら資料館配布資料
- ・大阪府立狭山池博物館パンフ
- ・大阪狭山市郷土資料館パンフ